

- 国際物流の多元化・強靱化の観点から、安定的なグローバルサプライチェーンの確保に向けて、中央回廊カスピ海ルートの実証輸送を行うことで、従来の国際物流における海上・航空輸送ルートのBCPとなり得る代替的な輸送オプションの利用可能性を検証する。
- 前回は「秋から冬にかけて」の中央回廊に関する実証輸送だったものについて、既存の成果を発展・進化させるための継続的・集約的な国際物流ルートの活用を目的として、今回は「春から夏にかけて」の中央回廊カスピ海ルートに関する実証輸送を実施する。
- 実証輸送の参加事業者及び対象とする輸送手段・ルート等については、公募により選定する。

実施方針

- 公募期間 令和8年3月11日（水曜日）～ 令和8年4月21日（火曜日）
- 対象事業者 日系荷主企業、日系物流事業者等
- 実施条件 ① 令和8年3月～6月頃に輸送開始するものであること。
② 日本を発地又は着地とし、中央回廊カスピ海ルートを経由するものであること。
- 選定方法 国土交通省において、以下の事項等について総合的に審査を実施
 - ① 実証輸送の実現可能性
（関係者間で、貨種・貨物量や輸送ルート等の調整ができていること等）
 - ② 当該輸送手段・ルートの汎用性
（他の日系荷主企業・物流事業者等への展開可能性があること等）
- 検証事項 輸送コスト、リードタイム、輸送品質、輸送の際の手続き、トレーサビリティ等

中央回廊カスピ海ルートの例



令和6年の実証輸送では、11月末～12月上旬に日本を出発した4件が、カスピ海のアクタウ港にて、強風のために22日～41日間、貨物滞留した。

留意事項

- 本実証輸送の実施に当たり、一輸送につき原則として100万円を調査協力に係る費用として支出するが、複数コンテナの場合は2コンテナまでを上限に200万円を支出する。ただし、応募件数が少ない場合、支給金額の調整を行う可能性がある。
- 実証輸送の進捗及び結果は、各参加事業者からアンケート、ヒアリング等によりご報告いただき、最終的には報告会等の形で公表予定。